

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第3号
2022年 5月30日
編集・文 吉成正士

自分の意見が言えるようになりました

■私はこの人権学習で皆、入学する前、同じような気持ちを持っていたんだと思いました。

最初に見たビデオの内容の中で、臓器提供が印象に残りました。私の祖父はいつも財布の中に臓器提供意思カードが入っているのを話してくれます。過去にも臓器提供をテーマにしたドラマを見ましたが、正直複雑な気持ちになりました。でもよく考えると、どうせ死ぬのなら、誰かの役に立てるなら提供したいと思いました。

伝染病や顔に対しての差別など、前は自分で言えませんでした。今は家族や友達に対して自分の意見が言えるようになりました。

明後日、10日後には中間テスト、体育祭がありますが、今日の皆の意見を聞いて、「〇〇さんは走るの遅い」とか、「〇〇さんは勉強ができない」など、ふと云ってしまうようなことは絶対に言わないように気を配ろうと実行します。

(1組 DI)

臓器提供について複雑な思いになるのは、どこか分かる気がします。私もずっと、臓器提供意思カードを財布の中に入れていたのですが、印を付けられずにいました。でも、もう十分生きた(と思う)ので、もうそろそろいいかな、こんな身体の一部でも誰かのよろこびにつながるのなら、と思い、「提供する」を○で囲みました。

ビデオの中で中学生が言っていたように、まだまだ臓器提供について知られていないことを考えると、まずは知ること。できれば当事者や、当事者の家族の思いを知ること。そして考えること。そこから始めるのでいいかと思います。

「無知が差別を生む」思いを知ること

■僕はこの度、人権学習の授業を受け、主に2つのことを学びました。

まず1つめは、本当に差別が起こってしまっているということです。そして、「人権作文に向けたこれからの予定」の3項目めの友達の体験談を初めて聞き、驚きました。なので、そのような悩みがある子たちの相談相手になれるようにしていきたいと思います。また、その悩みの原因である差別も、自分ができることをし、なくしていこうと思いました。

2つめは、実現性がない大きなことを言うのではなく、自分ができる小さなことをコツコツやっていきたいです。

(1組 SD)

あの日あのとき、どんな内容の学習したのか、あらためて確認しておきましょう。

1. 中学生になって約1ヶ月。入学する前は、どんな気持ちでいましたか。入学してから1ヶ月は、どんな気持ちで過ごしてきましたか。
2. あなたのこれまでの人権についての学びを教えてください。これまでに小学校や家庭、ネットやテレビ、本などから、どんな学びをしてきましたか。また、そのことについてどう思いましたか。
3. 人権を考えるうえで大切なことは、身近な出来事です。勝手な「決めつけ」や「押しつけ」、「思い込み」で、人に嫌な思いをさせてきたり、させられてきたことはありませんか。人権侵害(差別やいじめ)を身近に感じたことはありませんか。
4. 目前に中間テストや体育祭を控えていますが、あなたはこの学年をどんな学年にしていきたいですか。この1年、あなたはどんな人間をめざしますか。

「1」では、やはり入学前は不安だったような発言が聞かれました。でも、今では会話できるようになったとか、勉強を教え合えるようになったとか、もっと仲良くなりたいという発言が相次ぎました。

「2」では、水俣病、環境問題、部落差別、アジア人差別、ハンセン病、コロナ差別、児童労働、女性差別、原子爆弾、神風特攻隊、SNS上の差別、人種差別、障がい者差別、いじめ問題について学習したことが発表されました。

そして、「3」について発表された内容に、この人は驚いたんですね。「ない」と思っていたことが、身近で起こっていたことに。

「無知が差別を生む」と言われることがあります。知らなかったことは仕方のないことかもしれませんが、関心を持たなかったことは罪と言えるかもしれません。

身のまわりのことを、関心を持ってみる。社会で起こっている出来事についても、関心を持ってみる。そうすることで、人間としての視野が広がっていきますよ。

素直にふり返り、自主的な行動に

■私は、学年で人権集会をして、あらためて差別のない世界が必要だと思いました。発表をしてくれた人たちの中に、これまでの学習を生かして、人権問題にしっかりと向き合うと言ってくれた人がいました。

私は6年生の時に、様々な人権問題の授業をして感想を書きましたが、すべてきれいごとだったのかもしれ



自分たちでなくしていく

■僕はこの学習をして、今まで自分も思い込みなどで差別をしてしまっていたことがあったと気づいた。そして、差別をなくすためには、まず一人一人が自分で気をつけないといけないと思うので、これからは同じ失敗をしないように気をつけないといけないと思った。

他の人の発表を聞いて、身のまわりにも差別があり、それは自分たちでなくしていけるものもあるなど、いろいろなことに気づかされた。だから、僕もこれから気をつけて生活していこうと思った。もっと人権問題を詳しく知り、どのような行動をすればよいかをもっと知りたいと思った。

(5組 NS)

まずは自分で気をつける。でも、自分で気づけないものもある。だから、周りの人と教え合いながら、気をつけていくということですね。人は自分の価値観で物事をはかってしまう一面があります。でも、人にはそれぞれの価値基準があるものです。それと照らし合わせると、自分とは明らかに違ってビックリすることもあります。だからやはり、対話すること、交流することです。

それに、差別と聞くと、身のまわりにはあまり感じられなくて、どこか遠くのこのように思いがちかもしれません。でも、遠くのことだからといって、「自分とは関係ないし」と思ってしまうのは早計です。



毎日多くの給食の残飯が発生しています。「おむすびころりん1億個」というコマーシャルを見たことがある人もいると思いますが、日本では毎日、おむすび1億個分のカロリーを廃棄している計算になるそうです。昨日も、今日も、そして明日も、明後日も。

一方で、毎日食べる物がなく、生きていくための食料にありつけない人もいます。でも日本では、給食も含め、食卓にあがる食材の約3分の2は、海外から輸入しているのです。国内で生産された食材は、約3分の1。そのうえ、毎日一人おむすび1個分のカロリーを捨てている。食べられない人がいて、命を奪われている人がいる。その命を奪っている人は、いったい誰でしょうか。これを人権問題と言わずして何でしょう。みなさんに、「無理して給食を食べろ!」と言っているのではありません。まずこの状況を知って、食糧問題について関心を寄せ、考えて行動できる大人になってほしいなと思います。まずはそこからです。これも私たちの身近で、毎日起こっている、大切な人権問題です。

このあと、6月いっぱいにかけて、人権作文についての取り組みを行います。「何を書いていいかわからない」という人は、これまで自分や自分の周りで起きたことを思い起こしてみてください。

そして、学級の仲間に自分のことを伝え、仲間のこととも知っていきましょう。それを学年全体につなげていきましょう。ガンバロウ!

ません。外国人を助けよう!という募金箱がありましたが、いつもは目に入っている、お金は入れていませんでした。私はすでに人権問題に向き合えて、なくすための行動をとっていると思っていました。でも、本当はできていなくて、それはただの思い込みだったことが、今日の学習を聞いて分かりました。

今日、発表してくれた人の中で、実際に差別をされたという人がいました。その差別の内容は、「牛乳を飲まなくて差別される」や、「弱いからあっちのチームに行け!」と見下すようなことを言われたなどです。この学年にもそういうことを言われた人が何人かいました。なので、世界には差別をされる人が何億人というはずで、私はこの何億人の人を助けるために、小さいことから自主的に行動したいと思います。(5組 OS)

「知性とは、自分をふり返ることができること」と言われることがあります。そんなことができる人が、世の中にどれくらいいるのでしょうか。あなたはどうか。この人はそれができているように思います。なかには大人でも、それが難しい人もいます。一般的に「偉い」と言われる人でもです。そう思えば、この人は本当に立派です。

どんな人でありたいのか、どんな人をめざすのか、それは人それぞれですが、ぜひとも「今の思い」を大切に持ち続けてほしいと思います。そんな人間である以上、人は人として、どこまでも伸びていくことができますから。

私は小さい子を見ると、純真で可愛いなと思います。良い一面だけを見ればそうなのですが、その一方で、残酷で嫌らしさを感じるときもあります。「楽しさ」が度を越えて、茶化したり、ふざけて人をバカにしたり、嫌らしくしてみたり。ときには、さっきまで仲良くしていった友達をのけ者にしてしまうこともあります。小さいうちは、「幼いから」で済むかもしれませんが、大人になってもそれでは、周りとうまくやってはいけません。ということは、「幼いから」と言っていて、いつもいつも済ましていいわけではないということです。

親として我が子を見るとき、「機嫌良く毎日学校に行ってくればそれで十分」と思っていました。「勉強なんて二の次」と。そんなお家の方もおいでるのではないかと思います。ということは、みなさんは、そういう目で見られているということです。学校がそういう場所であってほしいと思っています。そんな場になっているのでしょうか。今いる周りを見渡してみてください。そんな教室になっているのでしょうか。私たちは、そんな場をめざしていきたいと思います。大人数で生活していますからいろいろなことがあります。人間ですから間違えることもあるでしょう。でもそのたびに、間違いをみんなで乗り越えられる学級、学年をめざします。あなたも、そのなかの大切な一員です。

